



All Japan Road Race Championship 2021

RACE REPORT

SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

■SDG Motor Sports RT HARC-PRO. Media Infomation

2021 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第5戦
第53回 MFJ グランプリ スーパーバイクレース in 鈴鹿

三重県・鈴鹿サーキット (1周 5.821km)

7月17日(土): 公式予選・JP250 決勝

天候: 曇り コース: ドライ

7月18日(日): 決勝 天候: 晴れ コース: ドライ

観客動員数: 10,500人 (2日間合計)

ST1000クラス #5 榎戸 育寛

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: DUNLOP

予選: 予選: 10番手 (タイム: 2分10秒379)

決勝: 6位

J-GP3クラス #3 成田 彬人

マシン: Honda NSF250R タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 18番手 (タイム: 2分22秒116)

決勝: 18位

ST600クラス #35 千田 俊輝

マシン: Honda CBR600RR タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 欠場

決勝: 欠場

MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間 清

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP

予選: 予選: 22番手 (インタークラス: 10番手) (タイム: 2分36秒577)

決勝: DNF



GRAND PRIX
SUZUKA
CIRCUIT



All Japan Road Race Championship 2021 RACE REPORT

SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

真夏の鈴鹿ラウンドは甘くはなかった SDG 戦士たち かく戦えり



ST1000 #5 Ikuhiro Enokido

全日本ロードレース選手権 第5戦鈴鹿 MFJグランプリが7月17日・18日に行われた。この時期に鈴鹿で全日本があることは異例であり、本来は、鈴鹿8耐が開催される予定であったが、コロナ禍のためスケジュールを入れかわったためだった。

事前合同テストはなく、6月初旬に鈴鹿8耐向けのテストでST1000のテストをしていたライダーもいたが、榎戸は、JSB1000マシンをライド。その後に行われた筑波ラウンドでは、クラス初優勝を飾っており、その勢いを今回の鈴鹿にも持ち込みたいところだった。



ST1000 #5 Ikuhiro Enokido

木曜日の特別スポーツ走行からレースウィークがスタート。その1本目でアクシデントが発生してしまう。コースイン直後に榎戸は転倒を喫してしまい、1周もできずに最初の走行を終えてしまう。2本目は、マシンを確認し、金曜日のART合同走行で、セットを進めて行きたいところだったが、またも転倒という流れに乗れずにいた。



ST1000 #5 Ikuhiro Enokido

さらに深刻な状況となっていたのが、ST600クラスの千田俊輝だった。初日の1本目は小雨交じりの難しいコンディションとなっていたが、セッション終盤に高速コーナーである130Rで転倒。左手甲を骨折してしまい、今回の鈴鹿ラウンドはキャンセルを余儀なくされてしまった。

J-GP3クラスの成田彬人は、ホームコースでもある鈴鹿で、今の低迷から脱却しようと必死にがいていた。



J-GP3 #3 Akito Narita

土曜日に梅雨明け宣言が出され、気温は30度、路面温度も46度と暑い一日となる。榎戸は、公式予選も使い転倒で遅れた分も取り戻そうとマシンセットを進めながらのタイムアタックとなるが、自己ベストに届かず10番手。成田は18番手グリッドにつけていた。



J-GP3 #3 Akito Narita

ST1000クラスの決勝レースは、日曜日の最後に行われた。榎戸は、好スタートを決め1コーナーで7番手に浮上。そのままオープニングラップを終え、前を追い抜きたいところだったが、マシンセットが十分に決まっていなかったためペースを上げることができない。逆に2台にかわされ9番手にポジションを下げてしまう。苦しい状況ながらライディングでカバーしながら走行を続ける。8周目にトップを争っていた2台が転倒し、7番手に浮上。そのまま単独でチェッカーフラッグを受けるが、レース後に失格になったライダーがいたため、最終的なリザルトは6位となった。

J-GP3クラスの成田は、混戦の中で自分の走りを見つめ直しながら周回を重ね18位でゴール。MFJ CUP JP250クラスの赤間清は、2周目のヘアピンで転倒。そのままリタイアという悔しい結果となった。



JP250 #71 Kiyoshi Akama



■榎戸育寛コメント

「事前テストがなく限られた時間しかない中で、初日、2日目に転倒を喫してしまいリズムを崩してしまっていました。チームに申し訳ない気持ちでいっぱいですが、自分自身が招いてしまった結果だと反省しています。すぐにテストもあるので、気持ちを切り換えて、しっかり戦える状態にして残り2戦に挑みたいと思っています」

■成田彬人コメント

「鈴鹿も大苦戦のレースになりましたが、前戦までのレースよりも次に進むための材料を収穫できたと思います。自分とバイクの、いい部分と悪い部分がハッキリ理解できるようになってきたので、次戦に向けた解決策をチームと話し合っ、事前テストからしっかり走っていきたくですね。残り2戦で自分自身、最大限の力を発揮できるように全力を尽くすのみですね」

■千田俊輝コメント

「前戦筑波は、いい流れで戦えたので、その勢いのまま鈴鹿も走りたかったのですが、初日の1本目に130Rで転倒してしまい左手の甲を骨折し欠場することになってしまいました。走れなかったことは悔しかったのですが、コースサイドで他のライダーの走りを見ることができたことは、すごく勉強になりましたし、まだまだ学ぶことがたくさんあると思いました。1日も早くケガを治し、岡山、オートポリスでは、しっかり結果を出せるように頑張ります」

■赤間 清コメント

「今回は木曜日から走行があり、走り始めから、いいフィーリングでした。マシンも着実に仕上がって来ていましたし、ライダー自身の調子もよかったので、いいレースができると思っていたのですが…。スタートは、うまく決まりポジションを上げようと気持ちが先に行ってしまう2周目のヘアピンで単独転倒。もっと鈴鹿を走りたかったので残念な結果になってしまいました。次戦岡山は、しっかり完走して結果を残したいと思っています」



JP250 #71 Kiyoshi Akama



このリリースのお問い合わせは
昭和電機株式会社 マーケティング統括部まで